

君の知らない物語

「化物語」のED

いつもどおりのある^ひ日の事^{こと}
君は突然^{きみ}立ち上がり^{とつぜんた}言った^あ
「今夜^{こんや}星^{ほし}を見^みに行^ゆこう」

「たまには^い良い^ゆこと言うんだね」
なんてみんな^いして^{わら}言って^{わら}笑った
明^あかりも^{みち}ない道を
バカ^あみたいには^あしゃいで^あ歩いた
抱^{かか}え込^こんだ^{こどく}孤独^{ふあん}や不安^{ふあん}に
お^お押しつ^おぶ^おされないように

真^まっ暗^{くら}な^{せかい}世界^みから^あ見^あ上げた
夜^よ空^{そら}は^{ほし}星^ふが^ふ降^ふる^ふよう^ふで

いつ^{きみ}から^{こと}だ^{きみ}ら^{こと}う^{こと}君^{こと}の^{こと}事^{こと}を
お^お追^{わたし}い^{わたし}か^{わたし}ける^{わたし}私^{わたし}が^{わたし}いた
ど^{ねが}う^{ねが}か^{ねが}お^{ねが}願^{ねが}い
お^おど^おろ^お驚^おか^おない^おで^お聞^おいて^およ
わ^{わたし}た^{わたし}し^{わたし}の^{わたし}こ^{わたし}の^{わたし}想^{わたし}い^{わたし}を^{わたし}

「あれ^{きみ}が^{ゆび}デ^{なつ}ネ^{だいさんかく}ブ、アル^{だいさんかく}タ^{だいさんかく}イル、ベ^{だいさんかく}ガ」
君^{きみ}は^{ゆび}指^{なつ}さ^{だいさんかく}す^{だいさんかく}夏^{だいさんかく}の^{だいさんかく}大^{だいさんかく}三^{だいさんかく}角^{だいさんかく}
お^おぼ^お覚^おえて^お空^{そら}を^{そら}見^みる
や^みっ^みと^み見^みつ^みけ^みた^み織^{おり}姫^{ひめ}様^{さま}
だ^{ひこ}け^{ひこ}ど^{ひこ}ど^{ひこ}こ^{ひこ}だ^{ひこ}ら^{ひこ}う^{ひこ}彦^{ひこ}星^{ひこ}様^{ひこ}
こ^{ひこ}れ^{ひこ}じ^{ひこ}ゃ^{ひこ}ひ^{ひこ}と^{ひこ}り^{ひこ}ぼ^{ひこ}っ^{ひこ}ち^{ひこ}

た^たの^た楽^たし^たげ^たな^たひ^たと^たつ^た隣^たの^た君^た
わ^{わたし}た^{わたし}し^{わたし}の^{わたし}な^{わたし}に^{わたし}い^{わたし}私^{わたし}は^{わたし}何^{わたし}も^{わたし}言^{わたし}え^{わたし}な^{わたし}く^{わたし}て^{わたし}

ほん^{きみ}と^{こと}う^{こと}本^{きみ}当^{こと}は^{こと}ず^{きみ}っ^{こと}と^{きみ}君^{こと}の^{こと}事^{こと}を

どこかでわかっていた
^み見つかったって
^{とど}届きはしない
だめだよ ^な泣かないで
そう ^い言 ^きい聞かせた

^{つよ}強がる ^{わたし}私は ^{おくびょう}臆病で
^{きょうみ}興味がないようなふりをしてた
だけど
^{むね}胸を ^さ刺す ^{いた}痛みは ^ま増してく
ああそうか ^す好きになるって
こういう ^{こと}事なんだね

どうしたい? ^い言 ^いってごらん
^{こころ}心の ^{こえ}声 ^がが ^{する}する
^{きみ}君の ^{となり}隣 ^がが ^{いい}いい
^{しんじつ}真実 ^{ざんこく}は残酷だ

^い言 ^わな ^なな ^かか ^っっ ^たた
^い言 ^ええ ^なな ^かか ^っっ ^たた
^に二 ^ど度 ^もも ^どと ^戻戻 ^れれ ^なな ^いい

あの ^{なつ}夏 ^ひの日
きらめく ^{ほし}星
今 ^{いま}でも ^{おも}思 ^だい ^出出 ^せせ ^るる ^よよ
笑 ^{わら}った ^{かお}顔 ^もも
怒 ^{おこ}った ^{かお}顔 ^もも
^{だいす}大好き ^でで ^しした
おかしいよね
わかってたのに
^{きみ}君 ^しの ^し知らない
^{わたし}私 ^{ひみつ}だけの秘密

よる こ
夜を越えて
とお おも で きみ
遠い思い出の君が
ゆび
指をさす
む じ ゃ き こえ
無邪気な声で

いつもどおりのあるひのこと

日 事

きみはとつぜんたちあがりいった

君 突然立 上 言

「こんやほしをみにゆこう」

今夜星 見 行

「たまにはいいことゆうんだね」

良 言

なんてみんなしていってわらった

言 笑

あかりもないみちを

明 道

バカみたいにはしゃいであるいた

歩

かかえこんだこどくやふあんに

抱 込 孤独 不安

おしつぶされないように

押

まっくらなせかいからみあげた

真 暗 世界 見上

よぞらはほしがふるようで

夜空 星 降

いつからだろう きみのことを

君 事

おいかけるわたしがいた

追 私

どうかおねがい

願

おどろかないできいてよ

驚 聞

わたしのこのおもいを

私 想

「あれがデネブ、アルタイル、ベガ」

きみはゆびさすなつのだいさんかく

君 指 夏 大三角

おぼえてそらをみる

覚 空 見

やっとみつけたおりひめさま

見 織姫様

だけどどこだろうひこぼしさま
彦星様
これじゃひとりぼっち

たのしげなひとつとなりのきみ
楽 隣 君
わたしはなにもいえなくて
私 何 言

ほんとうはずっときみのことを
本当 君 事
どこかでわかっていた

みつかったって
見

とどきはしない
届

だめだよ ならないで
泣

そういいきかせた
言 聞

つよがるわたしはおくびょうで
強 私 臆病

きょうみがないようなふりをしてた
興味
だけど

むねをさすいたみはましてく
胸 刺 痛 増

ああそうか すきになるって
好

こういうことなんだね
事

どうしたい?いってごらん
言

こころのこえがする
心 声

きみのとなりがいい
君 隣

しんじつはざんこくだ
真実 残酷

いわなかった
言

いえなかった

言

にどともどれない

二度 戻

あのなつのひ

夏 日

きらめくほし

星

いまでもおもいだせるよ

今 思 出

わらったかおも

笑 顔

おこったかおも

怒 顔

だいすきでした

大好

おかしいよね

わかってたのに

きみのしらない

君 知

わたしだけのひみつ

私 秘密

よるをこえて

夜 越

とおいおもいでいきみが

遠 思 出 君

ゆびをさす

指

むじゃきなこえで

無邪気 声